

ADAM

Acoustic Data for Animal Monitoring



音声情報による 動物のモニタリング

石田 健 (東京大学)

- 簡便な自動録音装置を野外に長時間設置し、回収してから聴いて、動物の音声を確認
- 動物季節変化、動物相、気候変動等 のモニタリングに役立てる
- 鳥類 (Avian)から出発、蛙、蝉、蛭、鹿といった動物、風雨波葉音等自然音、人の生活音 なども可
- 当面は、基準の明確な動物音を柱に試行

・装置

初期： Hi-MD (36hr.連続) →

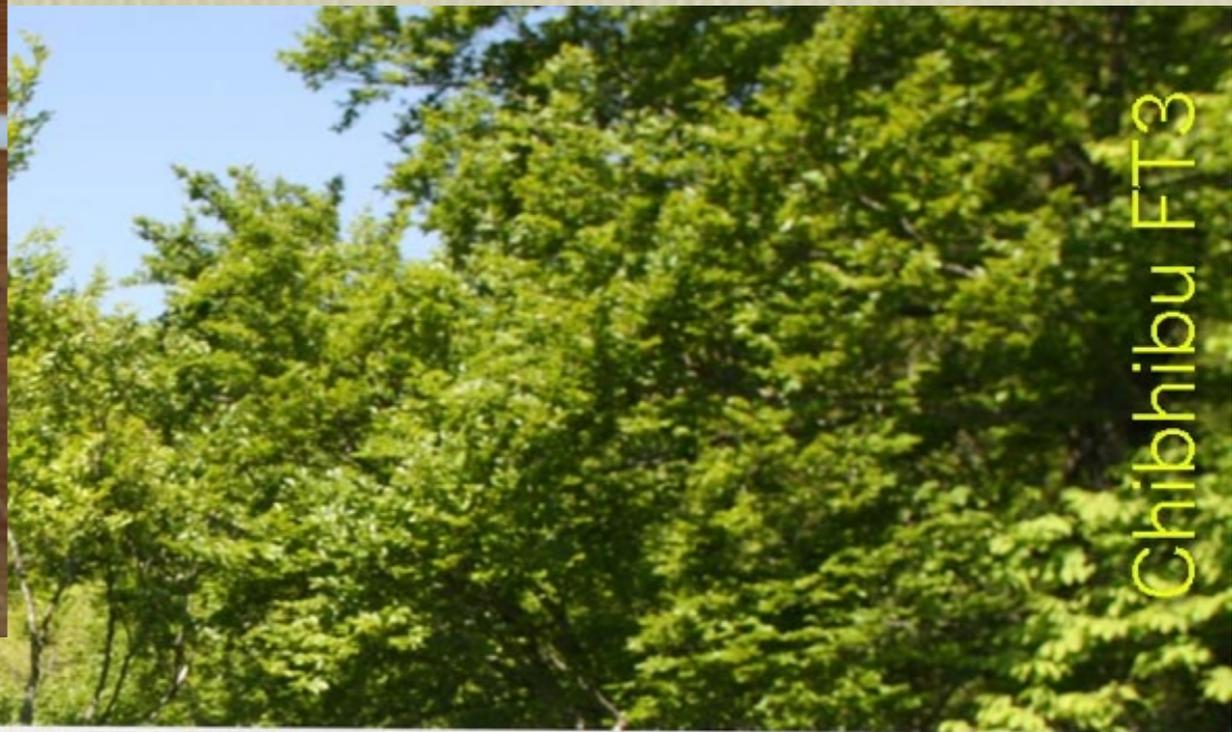
現在： ICレコーダー, リコーDSシリーズ
(タイマー録音、1ヶ月～、累計～270hr.)

- ・ 外部電池、防水容器、外部マイクを付加
多雨多湿地点では、防湿剤、屋根付加
塩水のかかるような場所では外部マイクは不使用

メモリー4GBのDS71だと、電池が先に無くなる



アルカリ単Ⅱ直列2本で
2時間 x 約1ヶ月(60~70時間) ~



Chibhibu FT3



2008.5.21

東大秩父演習林 森林鉄塔上の設置状況

現状

- 秩父、沖縄、奄美、群馬県武尊山などで春の早朝（鳥がさえずる時間）の録音から始めている。
- 環境省モニタリングサイト1000のコア・準コアプロットでの採用を働きかけ（夜の鳥の長時間録音では、調査員が交代で直接聞き取るより部分的に高効率という研究結果 << NPO バードリサーチによる）

課題

- 録音は安価な装置で比較的容易にできる。
まずは、録音を蓄積することも肝心。
- 録音を聞き取れることは、むずかしい。
 - 一部分だけ聞く
 - 特定の音だけ抽出
 - 自動認識（研究途上）
 - 聴覚の優れている視覚障害者の雇用創出
（例えば、環境モニタリング事業）

課題

- 活用されるために、ネット上で音声データベースとして、公開したい。使えるアーカイブができるか
- 利用者の関心により、さまざまな聞き方ができる。
- 既存の古い録音と比較できないか？ 長期環境変化
- 厚生省科研 などの活用
- 点字図書館などの団体との連携